

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部
	課名	長寿福祉課
	係名	長寿支援係
	記入者	
	電話(内線)	153

1. 事業の概要					
(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	高齢者サロン事業	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 一般事業費(ソフト事業)	
② 施策コード	14301 (総合計画掲載ページ 62 ページ)			会計区分	
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)			財源区分	
基本施策	1-4ゆとりをもって暮らせる高齢者福祉の充実(高齢者福祉)			予算科目	
施策	③介護予防の推進			款 項 目	
施策内容	1介護予防事業の推進			予算書上の 事業名称 (予算書 ページ に掲載)	
(5) 事業期間	開始 平成 17 年 4 月から 終了 年 月まで (カ年)	(8) 事務分類		自治事務	
		根拠法令		介護保険法	

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
結城市民	住民運営の通いの場を充実させることで、高齢者の社会参加を通じた介護予防の推進につなげる。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
住民主体の通いの場(サロン)活動を支援する。 ・はつらっ交流サロン「銀屋」 シルバー人材センターに運営委託。午前10時から午後4時まで会場を開放し、集いの場を提供している。 ・高齢者サロン「なごみ」 介護予防サポーターによる通いの場。 ・Men'sサロン 男性を中心とした通いの場を提供。 ・田間上サロン 高齢者支援ネットワークにより運営。	
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
高齢化が進展する中で、住民主体の集いの場(サロン事業)は、高齢者の社会参加や介護予防につながるだけでなく、若い世代から高齢者まで世代を超えた地域でのつながりを強くし、住民同士の見守りや助け合い、互助、共助につながる。また、今後、要支援認定者の介護給付から通所介護及び訪問介護が外れることにより、介護予防・日常生活支援総合事業では要となる事業である。	

3. 事業コスト				
行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映	
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)	
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度 30 年度 31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費			
	合計			
	国庫支出金 (千円)			
	県支出金 (千円)			
地方債 (千円)				
その他特定財源 (千円)				
一般財源 (千円)				
合計 (千円)				
補助・起債制度名				

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	高齢者サロン実施箇所数	目標値	箇所		5	7	9	11
		実績(見込)値		4	5			
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	高齢者サロン実施箇所数	目標値	箇所		5	7	9	11
		実績(見込)値		4	5	7	9	11
		達成率		36.4 %	45.5 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
平成27年度より介護予防サポーターによる高齢者サロン「なごみ」や男性を中心とした「Men'sサロン」、高齢者支援ネットワークによる「田間上サロン」を開設した。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	住民主体による集いの場(サロン)は高齢者の地域での居場所づくりだけでなく、地域での支えあいの体制づくりに重要な事業であり必要性は高い。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	介護保険の保険者(市)が実施すべき事業である。				
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	サロン活動の支援方法等については今年度体制整備をする。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	上記に同じ				
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	上記に同じ				
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	上記に同じ				
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	上記に同じ				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
前年度までは介護福祉課、地域包括支援センター、健康増進センターの3課が各々事業を実施しており、サロン事業についての共通認識がされていない状況であり、支援方法が統一されていない状況である。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
今年度、既存のサロン事業を支援するとともに、地域にある住民主体の集いの場の掘り起す。また、次年度以降、新たな住民主体の場を支援していくための体制整備を行う。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)		注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)		地域で気軽に集まれ交流できる場をつくることにより、閉じこもりや寝たきり等の防止につながる。今後は拡大していきたい。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				